



みねかえで しるし あお
峰楓 徽章と仰ぎ

第1号

【発行人 教頭(中原)】

1 学期始業式 挨拶〔校長 有賀 稔〕

2、3年生の皆さん 進級おめでとうございます。今日ここに令和四年度の伊那中学校がスタートします。午後には入学式が行われますが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、昨年同様に2、3年生は生徒会役員のみでの参加としました。ご理解ください。

さて1学期始業式にあたり少しお話させていただきます。

私は3月の終業式で、これからの世の中は、何が正解なのかわからないそんな時代になってくる。だからこそ、伊那中で取り組んでいる「Inachu My Challenge」について、どうしてこんな学びが必要なのかについてお話させていただきました。今日も、少し「学び」ということについてお話させていただきます。

先日、私の目に「アメンボはなぜ水を歩けるの?」という一文が飛び込んできました。私たち人間は、水の上を歩けません。でもアメンボは雨上がりの水たまりなどで見かけますが、水の上を歩いているように見えます。皆さんも見たことがあると思います。

これまで私は皆さんに学びについて何回か話をしてきたので、「どうして水の上を歩けるのかという答を知っていることが大事ではない」と言いたいことは何となく感じてくれていると思います。もし、アメンボに興味を持った人は調べてみてください。

私が今日言いたいのは、雨上がりの水たまりにいるアメンボを見て「どうして水の上にいるのか」という疑問をもつ、そんな疑問をもつ感性を磨いてほしいということです。もちろん、水たまりのアメンボを見て、「どこからこのアメンボは来たのだろう」とか「雨上がりの水たまりでアメンボは何をしているのだろう」「水たまりにいて何か餌はあるのだろうか」はたまた「どうなったら人間もアメンボのように水たまりの上にいることはできるのだろうか」など、どんな疑問でもいいのです。何かを見たり聞いたりした時に「なぜ」「どうして」と感じる心を育ててほしいと思うのです。そして、感じた疑問を「自分なりに解決してみよう」と行動すること、これが「本当の学び」だと思ふのです。

私も少し調べてみました。すると、アメンボが水の上を歩けるのは、どうやら足の構造と足に生える毛、そしてその周りの油に秘密があるようです。そんな時、私はこんなことを考えました。

お皿などを洗う時に使う洗剤、洗剤は油を溶かすということを皆さんも知っていますね。そこで、もしアメンボの足の油が水の上を歩ける鍵だとしたら、洗剤の入った水の上をアメンボは歩くことができるのだろうか? 私にはそんな新たな疑問が浮かんできました。こんな新たな疑問をまた、追究したり、実際に自分で実験してみたり。こんな繰り返し、私は「探究的な学び」ではないかと思ふ。

今日はアメンボという、理科の分野の話をしました。社会科でも、家庭科でも技術科でも、美術でも、教科に関連しない分野でも。また世の中の出来事に対しても。もっと言えば、人の行動や姿に対しても。自分がどんなことに対しても、何かに関心を持つ感性を自分の中に育ててほしいと考えます。

そしてもう一つ。これも私の過去の話の中で触れてきましたが、今紹介した学びの中で意識してほしいことがあります。それは、「考え方を比較してみる」という活動です。「他の人の考え方と自分の考え方はどこが同じなのか比較してみる」、また「違いはどこか、どう違うのかを比較してみる」。そんな活動です。そんな活動をする、自分の考えがより明確になってきます。また違う考え方に触れることにより、自分の感性や価値観が広がります。そのためには、例えば授業の中では「人と意見を交換する」ことがとても大事になります。時には学級全体の場で、時にはグループの中で、時には隣の席の人と。先生と議論することも大事です。コロナ禍、大きな声を出すことが難しい時もありますが、マスクをして予防をする中で、いろいろな人と大いに語り合って授業を行ってほしいと願います。



【2年生 学級発表の瞬間】

ここにいる二、三年生は、コロナとともに中学生を送ることがすでに当たり前になっています。何かができないと悲しんでいてもしかたない、それより、今できることを最大限やってほしいと願います。

令和四年、一学期が皆さんにとって充実した時になることを期待します。(終)

令和4年度新任職員紹介

氏名	担当	前任校	氏名	担当	前任校
田中 清史	体育	西條松山学校	佐々木 敏子	学芸教諭	巨野市立学校

入学式 学校長式辞

百二十一名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ようこそ伊那中学校へ。今こうして皆さん一人一人の顔を見ますと、緊張の中にも瞳が輝いて「よし 頑張るぞ」という意気込みが伝わってきます。昔から中学生の十三歳から十五歳の頃は、人間の一生にとってもっとも大切な時期であると言えます。それは、心身ともに大きく成長するからです。三年間で身長も伸び体重も増えます。同時に、様々な勉強をしたり、時には笑ったり時には悲しんだり悔しい思いをする経験を積むことで、体力や学力だけでなく、智恵が付き心が豊かになり、精神的に自立しようとする、そんな成長と充実の時期になります。中学校三年間は、自分の人生の土台を作る時なのです。そんな時期を迎える、皆さんに私から伝えたいこと それは「自らが学ぶ力をつけよう」ということです。



私たちは今、新型コロナウイルス感染防止というこれまで経験したことのない状況の中で生きています。これまでの経験がそのまま利用することができない、そんな状況です。しかし、これまでの経験がそのまま利用できないという状況は、決してコロナという脅威と立ち向かうからだけではありません。世の中の価値観や社会構造がここ数年大きく変わってきている。今はまさにそんな時代になっています。

学校という場も、大きな変化が必要になっています。私が中学生だった四十年前以上前は、「いかにたくさんのかんことを覚えるか」学校はそんなところだったように思います。しかし、今は情報化社会。スマホやタブレットから様々な情報は瞬時に得ることができます。覚えることを重視した時代は終わり、「自分で考える力」「活用する力」「人と意見交換する力」「判断する力」などが必要とされる時代となっています。

中学校というところは様々な「学び」をする場です。「学び」とは、それは単に漢字・英単語を覚えるとか計算ができるようになるとか、言い換えれば教科書に書いてあることを覚えるだけではありません。

そこで、ぜひ皆さんに中学校の「学び」の中で意識してほしいことがあります。それは目の前のことに「疑問をもつ」ということです。わかりやすく言えば、何かに出会った時、「なぜ」「どうして」「なんで」と考えてみる力です。疑問をもつためには、自分の生活している毎日や世の中のことに「関心を持つ」必要があります。また、人の考え方に耳を傾ける必要もあります。伊那中では「伊那中 マイ チャレンジ」という学習でそんな力を伸ばしたいと考えています。

ところで、中学校では九教科の学習をしますが、「疑問をもつ」ということは教科学習や伊那中マイチャレンジだけではありません。私は「人の生き様」にも、関心を持ってほしいと思います。日々の生活の中では、時には自分と違う考え方や行動に出会うかもしれません。そんなとき、自分と違う考えや行動を否定するのではなく、「どうしてこの人はこんなことを考えるのだろうか」という視点で疑問をもってみることも必要になってくるのではないのでしょうか。そんな中で、自分自身の考え方や行動方法を作り上げていく、中学時代はまさにそんな時なのです。自分と違う考え方や行動に触れ、自分の心をいっぱい働かせること、時には自分と違う考え方や行動に悩むこともあるかもしれませんが、これからの不透明な社会を生き抜いていく中では、そんな経験も絶対に必要な力になると考えます。今日からの中学校生活で、たくさん感じ、考え、時には喜び、時には悩み、時には涙し、様々な経験をいっぱいすること、その一つ一つが皆さんを成長させていくでしょう。



最後に、そんな中で忘れてはいけないこと、それは「人を大切にする」「人に感謝する」「自分と違う考えを受け入れる」その心を大事にして欲しいと考えます。そして優しさやうれしさを感じたときには、誰に対しても、素直に「ありがとう」が口にできる人になって欲しいと願います。(略)

結びに、新型コロナウイルス感染防止という状況の中、本日の入学式は縮小した形とはなっておりますが、こうやって、新入生の晴れやかな顔を見ることができた入学式のこの場に感謝するとともに、伊那中学校の教育活動にご理解、ご協力をいただいておりますすべての皆様に感謝申し上げまして、式辞と致します。

(4月6日 伊那市立伊那中学校長 有賀 稔)

夜間・休日の電話対応について

標記の件につきまして下記の通り対応しております。ご確認の上、ご理解とご協力をお願いいたします。

- (1) 電話対応 平日7:50~19:00
- (2) 夜間や休日において、緊急に連絡する必要がある場合は、以下の連絡先をお願いします。

【伊那中学校緊急連絡電話】 070-4127-6087

- (3) 保護者からの欠席連絡が、オクレンジャーを使ってできます。対応時間は6:00~8:30です。

ご家庭や地域の皆様、本年度もよろしくお願ひいたします。
(伊那市立伊那中学校 職員一同)